

# 令和3年度 第1回高知県スポーツ振興県民会議

## 地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時:令和3年8月25日(水) 13:30~15:30

会場:高新文化ホール 7Fホール

出席:部会員8名が出席(別紙のとおり)

議事:(1)令和3年度スポーツ施策の進捗状況について

(2)Ver.5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて

(3)その他

### 1 開会

### 2 議事

#### (1)令和3年度スポーツ施策の進捗状況について

- 事務局から議事(1)の説明を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

#### (古谷 部会員)

- 今日もコロナ感染者が111名という状況で、今後は、コロナと向き合った形でのスポーツ推進計画を考えていく必要がある。そのなかで、リモートのスポーツ教室や研修ができる環境の整備をさらに行っていく必要があると思いますし、このコロナ禍のなかで学校で進めていくのは厳しいと思いますけど、親子で参加できるような環境づくりができないのかなと思います。

企業にとってもコロナ禍において、人との接触がなかなか難しいことがあります。企業自体もなかなか直接参加できない部分はありますけれど、去年、企業の運動会をやりましたけど、アフターコロナの部分も考えたらいいと思います。また、障害者の方々に対する、目配りといったことは企業としてもやらないといけないことの1つだと思っています。

#### (三谷課長)

- 親子の取り組みについては県主催イベントなどで、より意識してプログラムを考えるようにしており、さらに親子で参加しやすい内容についてもしっかりと検討していきたいと思います。

#### (田井 部会員)

- 障害児のスポーツ機会の充実という点で、障害のある子ども達がなるべく小さい頃から運動できる環境があったら良いと思っており、保育園へ行っています。保育所等訪問支援という制度があるが、保護者や園の先生が支援制度を知らないなので、皆さんにもっとよ

く知ってもらふことも必要ではないか。

保育所等訪問支援は月に1、2回程度、障害のある子どもが、障害児以外の児童との集団生活に適応することができるように訪問支援員が支援を行うものです。行政と連携をして、例えば、総合型地域スポーツクラブから指導者を派遣することもできると思う。

それから、まだ、健常者の方が障害者の方に少し偏見とかがあったり、子どもたちもまだ分かっていないこともあると思うので、学校の授業のなかで障害者のスポーツも取り入れて、障害者と健常者との溝が少しでも縮まるようなこともやっていかないといけないと思いました。

また、コロナの影響で特別支援学校や障害者施設には訪問しにくい状況なので、去年は、学校の先生に体育館に来てもらってスポーツの指導をし、道具を貸して先生自身が学校で実践してもらえるようにしました。そうすることで、子ども達が少しでも色んなスポーツに関わることができるようになるのかなと思います。

部活動については、バドミントンの取組が3年目になりますが、やっと1人中中学生に上がり、その子がこの前の大会で160人中32位といった結果を出した。伊野南中学校や春野中学校とも一緒に練習させてもらい、本人も頑張って練習してきた成果かなと思います。合同でもチーム戦ができないという大きな課題もあるんですけど、1人しかいない子どもたちは色んな学校と連携して上手くなっていったらいいかなと思います。

リモートについて、障害者の施設に毎月リモートで体操教室を配信しており、入所者がすごく喜んでいました。ただこうした施設だと日常、一緒に生活している人がいるからいいんですけど、その他でリモート活動をする場合には、施設側に沢山集まって密になるので、結局リモート配信がなかなかできないため、相手が個人、個人になってしまう。今回コロナで体育館の閉館とかいろんなことが余儀なくされている。直近の2週間をチャンスとして、皆さんにzoomの練習をしてもらっているが、難しいなどの声が出ていて、なかなか進みにくい状況はありますが、今後のために、今とりあえず全員がzoomをやる練習をしています。

スポーツツーリズムについては、高知県はサーフィンは盛んなので、ボディボードや、サーフィンの合宿とか子どもたちを集めた合宿など、選手を育てる取組も面白いかなと感じています。初心者向けの場所も結構あると思うのでサーフィンなどの競技もどうかかなと思っています。

### (三谷課長)

- 部活動につきましては、色々な課題もありますので、県教育委員会ともしっかりと連携して、情報共有も密にとりながら対応して行きたいと思っております。リモートにつきましても、メリットデメリットがありますので、いろんな情報を提供していただきながら、情報共有をさせていただけたらと思います。障害者スポーツについては、課題はまだまだ多く、色々な分野の方々と連携する必要がありますので、庁内でもその点を意識して他部局と連携して取り組んでまいります。

### (北村 部会員)

- 地域の振興という点で、西部と東部に今年度から障害者スポーツのコーディネーターを配置しているところです。特に昨年度、障がい者スポーツ指導員の養成を西部地区で行っていき、その養成された指導員の方と一緒に盛り上げていこうということで今取り組んでいるところです。障害がある方のスポーツ大会の開催についてフライングディスク競技を9月から1月にかけて、分散開催として会場を県の西部、東部、中部に分けてやろうと思っています。県の西部と中部がほぼ同じくらい約100人の申込がきています。西部のほうは昨年度活動したので、コロナの中でも動いた成果が一定でてきているのかなと感じています。

学校関係、子どものスポーツ環境づくりですけど、特別支援学校に関しては、今年の高知県体の時に、高知新聞さんに取り上げていただいた方が一人いたんですけど、高体連に加入して、高校生と一緒にアーチェリー競技をやった記事が出ておりました。このあたりについては、特別支援学校の中でも高体連に比較的登録ができやすい学校とそうでない学校があると、そこが各担任、クラブの顧問などの先生方によるところも若干あるように聞いていますので、そのあたりをもう少しスムーズに繋げていくことで、特別支援学校のクラブ活動の新たな展開につながるかなと感じています。

もう一つ、一般の学校の中にある特別支援学級の小中学生等に関しては、各学校の先生方と我々がもうちょっと連携をとらせていただいて、相談をしやすい関係性ができたらもう少し色々な展開ができると思います。情報提供が十分でなく、うまくつながっていないというのを感じているところです。

最後ですけど、スポーツ医科学の活用では、強化の部分ですけど今年度から障害者の選手強化事業ということで、県から補助金が出ています。そうした中で選手に対する研修等の中では県スポーツ医科学センターと連携して講師等のお願いをさせてもらいながら良い形で、情報が入ってきて選手の競技力向上につながるような形がとれればと考えています。

### (三谷課長)

- 特別支援学校の障害のある高校生がインターハイに出場することについては、聾学校の生徒は出場されており、その他の障害のある生徒についても基本的に出場が可能だというふうに聞いている。また登録の在り方とかについては、県教委と確認をしながら何かハードルがあるようでしたら検討したいと思っています。

特別支援学級につきましては、これも県教委と連携をしまして、特に理解啓発の取り組みなどは広げていきたいというふうに思っています。県民会議のアドバイザーであるマセソンさんに以前からアドバイスをいただいている中で、できるだけ早い段階からの障害者スポーツの教育について、助言をいただいておりますので、そうしたところについては、県教委に相談して取り組んでいきたいと思っています。

### (島崎 部会員)

- 学校部活動の地域への移行について、高知市では地域の指導者が部活動を指導してい

る例はありますか。

#### (保健体育課 中内チーフ)

- 高知市でも外部の方が部活動指導員として指導にあたっている部活はいくつかあります。種目については、バスケットや剣道もありますし、学校、人数的には7名ほど指導員として入ってもらっています。

#### (島崎 部会員)

- スポーツ推進委員としては、指導者として地域のスポーツ少年団に関わることがあると思いますが、スポーツ推進員で部活動の指導ができる人材はそれほど多くないと思います。スポーツ推進委員という仕事は基本的に日曜しかできない、普段の日は仕事があるので、指導にあたることはなかなか難しい部分があるのではないかと思います。  
障害者スポーツにおいては、スポーツ推進委員としても、障害者の理解や、障害者へのスポーツ指導、健常者と障害者が一緒に行える活動などの研修をこれからもやっていかなければならないと思っています。

#### (三谷課長)

- スポーツ課も県のスポーツ推進委員連絡協議会の事務局をやらせていただいておりますので、また連携をしたいと思っています。

#### (公文 部会員)

- 女子のサッカー部をつくる時に地域を巻き込んで立ち上げたが、その時に指導者の確保がネックとなり、県外から招聘した経緯があり、外部指導員として勤務してもらっています。
- 学校の教育効果の話が出たが、学校内での生活面は自分が見ており、サッカーの指導は外部指導者が中心となっています。
- 子ども達について、保育園の頃から色々なスポーツに関わって、成長をして欲しいと考えますが、機会がないのが現状です。
- 昨年度、高校に部活動ができると同時に、幡多地域の中学生のチームも立ち上げたことにより、中学校で他の部活を行っていた生徒が、サッカーもやりたいとのことで参加してくれるようになり、競技者が増加しました。機会の創出が大事だと感じています。
- 地域内の取組で、保育園から一般までを対象に、町内でイベント開催を11月予定で準備している。色々な年代の関わりが増えれば、地域振興に繋がると考えています。
- 合同部活動では移動の問題がある。大会のほとんどが高知市で開催されることが多く、移動に関しては、郡部からでは時間もお金もかかり保護者の負担が増えることが課題。学校の場合でも費用もかかります。部活動については、移動面への配慮も検討いただきたい。高知市は移動に市が所有するマイクロバスを高校が活用していると聞くので、県にも同様の対応の検討をお願いしたいと思っています。
- 障害者スポーツについて、サッカーは様々な年代にわかれていて、60歳以上のリーグ

があり、そのリーグには知的障害の方のチームも参加しており、健常者のチームと試合をしています。

- リモートに関しては、無観客試合において zoom で中継をしているチームもあります。時間制限のない有料プランにおいて、補助金の活用やクレジットカード以外の支払い方法の事例があれば紹介して欲しいと思います。また、屋内であれば、配信機器の設置は検討できるが、屋外であれば機器の常設は難しいと考えています。今後も無観客試合になる可能性もあり、屋外でも配信ができるような対応の検討をお願いしたいです

### (三谷課長)

- 子供のスポーツ環境についてはチームのあり方も、それぞれの地域地域で、実情が違いますので、現在、すべての市町村に対してヒアリングを行い、地域の状況の把握をしているところです。地域の状況を捉えながら移動面の課題等を含め、検討していきたいと思っています。

また、障害者スポーツに関しては、色々な連携先を視野に入れて対応することが必要と捉えており、リモートに関しましても、県が持つ情報につきましてはできるだけ発信をし、共有していきたいと考えています。

### (村上 部会員)

- スポーツツーリズムに関し、県外からの受け入れを行っています。土佐西南大規模公園での受け入れについて地域によって断ることはしていないが、リモートだと受け入れになりません。受け入れ側も、来る側も、折り合いが必要だと思う。昨年からガイドラインを作成し、その都度、関係機関と協議をして、更新をしながら作成をして進めており、コロナ禍前の7割くらいまでは回復したが、最近また停滞しています。
- バス利用の助成制度はすごく有効です。当初は、県内のバス事業者限定があったが、限定がなくなり、すごく活用しやすい。県の助成制度なので地域の事業者を活用することはわかるが、ただ、助成は来るチームのニーズにあった内容を望みます。
- 誘致について、一番必要なのはリピーターとの信頼関係の構築だと思います。誘致活動がコロナ禍で制限があるなか、関係性の維持が課題と感じており、県外などの事例を紹介いただくとありがたい。
- アマチュアスポーツの振興について、行政側の窓口がわからない。県庁内でも観光コンベンション協会、スポーツ課、公園下水道課とあり、スポーツ振興のゴールなどの情報共有を密にしていきたいと思います。
- コロナ禍での特徴で、スポーツ合宿に来る団体が自然体験をすることがすごく増えています。チームビルディング、リフレッシュなどを含めて、黒潮町であれば、カヤック、川遊びなど、練習の合間に取り入れることが増えており、自然環境の活用には自然体験が有効であると考えています。

### (三谷課長)

- 助成制度の周知について、しっかりと取り組んでいきたいと思っておりますし、事例

の紹介も同様でございます。ツーリズムにつきましてはスポーツ課が所管しておりますが、県観光コンベンション協会とも連携して取り組んでいるのが現状です。ただ公園下水道課と施設の管理面で、当然関連してきますので関係課とはしっかりと情報共有をして対応いきたいと思っております。

また、自然環境のニーズが高まっているということにつきましては、この後ご意見をいただく國則さんもメンバーに入らせていただいている自然環境を生かしたスポーツツーリズムの意見交換会でお伝えし、来年度の事業スキームのなかにもしっかりと反映していきたいと思っております。

#### (國則 部会員)

- プラットフォームの構築は資産になると思っております。活用される方の利便性が向上し、新たな種目に挑戦する方が増えると思っております。
- 合宿、キャンプにも力を入れて欲しい。
- こうちスポーツNAV Iの活用について、提案であるが、観光協議会が6つあり、各HPにリンクを張るなどの対応等が出来るのではないのでしょうか。

#### (三谷課長)

- プラットフォームの構築について色々ご意見いただきたいと思っております。スポーツツーリズムにつきましてもこれまで連携できていなかったところとしっかり繋いでいくことが非常に大事だと思っておりますので、こちら意識して取り組んでいきたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

#### (葛岡 部会員)

- 今回のオリンピックで、スケボー・サーフィン等の今までにない競技が増えてきました。新しい競技に関して、今まで培ったトレーニングとは違う、競技に通用するカラダづくりが必要となってくると思っております。
- 子ども達に必要なのは体験ができることと考えています。新しい分野を発展させるには、適応できる子どもを増やすことが重要です。県の発展のために取り組んで欲しい。
- 学校部活動について、外部講師を6年しており、毎年県外遠征に行くが、交通費がない状況にある。子ども達の指導等の支援で、大きな大会のために県外に行く際は、交通費等の支援があればよいと思っております。
- 障害者スポーツについて、小学生のクラブを見ているが、今回、県大会で100メートル走った発達障害の児童がいます。まっすぐ走れなかったが、練習をまじめにする子でした。子どもの特性を理解し、指導者を含め、周囲の環境づくりがとても重要であると思っております。
- 学校の教員の理解も重要。子どもに体験させることが重要で、ダメと決めつけるのではなく、子どもに体験させる環境づくりが必要だと考えます。

(三谷課長)

- 新しい競技に関するお話がありましたが。次の議題のなかで少しそういったことにも触れていますのでまた議題2のほうでも説明させていただきます。

(2) Ver.5に向けたスポーツ振興の強化ポイントについて

- 事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(村上 部会員)

- 6月に工科大学で話をするタイミングがありました。大学生は距離感があるのが一般的であるが、積極的な学生がいました。地域スポーツに興味があることを話してくれました。一度県外に出ても地元就職する学生の話聞く機会が最近増えてきたと感じています。

総合型地域スポーツクラブを運営するNPOなどが求める人材を明確にすると、人材の確保に有効だと考えます。大学生が就職しようとする検討材料に上がる情報提供ができていないかが疑問です。就職機会の取組として、情報提供ができていないのかとても重要であると考えています。NPO法人でも本業にできるということが、興味のある人達に、情報を伝えられることが大切だと感じています。

(田井 部会員)

- 私のが所属している総合型地域スポーツクラブも求人をして来ない人がいません。人材を確保する仕組みがあったらいいと思います。

地域スポーツハブの取り組みで、自分のところもできていないんですけども、一つのスポーツクラブが広域をカバーしきれてない現状があります。現在、総合型地域スポーツクラブは県内で27クラブあるが、例えば、最初からこのクラブと連携すると道筋を行政が作ってくると動きやすいと考えます。1つのクラブが2つくらいのクラブと連携すれば広域がカバーできるのではないかと。そういうふうにある程度、担当エリアのような枠を決めてしまうのはどうかなと思います。

地域スポーツハブが5年目になって、県からの補助も徐々になくなってくるなかで、どのように考えてみてもいいかもしれません。

(北村 部会員)

- オリンピック・パラリンピックのレガシーのところですが、私が直接関係しているのはパラのところなんです、車いすラグビーの池選手とかカヌーの小松選手などは、高知県の財産だと感じています。池選手に関しては彼の人間性も含めて他の選手が集まっています。このあいだもパラリンピック直前に今回の日本代表のメンバーの半数くらいが高知県に来て彼と一緒に練習しています。彼らに協力いただいて、この後たぶんラグビーもカヌーも国の支援が若干落ちていくと思うので、高知県を拠点にしてもらおうとか、何かそういった面白い取り組みっていうのができないかなと思います。

**(公文 部会員)**

- デジタル化の推進について、SNSの活用について、競技団体などに情報が十分に伝わっていないのが現状だと思います。
- その他の項目になるが、施設管理について、施設によっては定期的な休館日が条例で決まっていると思いますが、ニーズがあれば、条例を見直すなど、環境づくりを望みます。

**(國則 部会員)**

- SNSの活用について、周知を広げる意味でも、観光協議会のHPにリンク張るのがよいのではないかと。

**(古谷 部会員)**

- やはり地域のニーズに応じたスポーツ活動の充実という部分で、それぞれの地域スポーツハブが今後やはり中心になってくると思います。これからも色々と改善もしていかないといけない点も多いと思うが、この地域スポーツハブの取り組みを県がしっかりバックアップしてあげたらいいなと感じました。

**(島崎 部会員)**

- 今回のオリンピックで試合など見ていると、勝った選手なんかが必ず言うことが支えてくれた人に感謝ということで、ほんとに支えるということは大きな力になり、社会に広がる。スポーツ推進委員としては、地域で支えるということが一番大事ではないかと思えます。また、各県内の市町村が少子高齢化において人口減になっていることに関して、すごく心配しているのではないかと思います。そのために少しでも地域でのコミュニケーションが図れるように、小さな支える取組ということで運動会を開催し、そのなかで若者と高齢者が一緒になってスポーツを楽しむ一日にすることも必要かと考えています。これから更に少子高齢化が進み、人口が少なくなる市町村もでていきいるので、少しでも地域のコミュニケーションを進めていくために頑張らなければいけないと感じています。

**(葛岡 部会員)**

- SNSの活用で、県民が興味を持つことをどう発信していくかが重要であると考えます。県民が欲しい情報を的確に伝えると数字がついてくると思います。

**3 閉会**

以上